

年間授業計画 (シラバス)									
学年	3年	学科	全学科	単位	2	教科	地理歴史	科目	地理総合
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新地理総合 (帝国書院) ・新詳高等地図 (帝国書院) ・新地理総合ノート (帝国書院) 								
学習目標	(1)地球的な問題やグローバルな課題について、地図やデータを活用して考える力を身に付ける。 (2)気候や自然災害に関する知識を地図やデータを通じて深め、防災対策について考える力を身に付ける。 (3)現代の地理的な課題や生活文化について、地図やデータを活用して考える力を身に付ける。								
単元と学習内容									
1 学 期	1部 地図でとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて学ぶ。 							
	第1章 地図と地理情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 							
2 学 期	1節 地球上の位置と時差 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて学ぶ。 							
	2節 地図の役割と種類 1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて学ぶ。 							
3 学 期	第2章 結びつきを深める現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのかを学ぶ。 							
	1節 現代世界の国家と領域 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな言語を話す民族、さまざまな宗教を取り上げ。言語や宗教が人々の生活にどのような影響を与えているのかを学ぶ。 							
1 学 期	2部 国際理解と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化を歴史的な背景という視点から着目し、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのかを学ぶ。 							
	第1章 生活文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地形や気候には、どのような特徴があるのかを学ぶ。 							
2 学 期	1節 世界の地形と人々の生活 1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波、火山災害は、どのような被害をもたらすのか。また、地震や津波火山災害の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのかを学ぶ。 							
	2節 世界の気候と人々の生活 1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・気象災害の場所による違い、防災への取り組みや課題を学ぶ。 							
3 学 期	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害への日頃の備え、災害発生時の危機管理体制の整備を学ぶ。 							
	4節 歴史的背景と人々の生活 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
3 学 期	3部 持続可能な地域づくりと私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
1 学 期	第1章 自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
1 学 期	1節 日本の自然環境 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
	2節 地震・津波と防災 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
2 学 期	3節 火山災害と防災 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
	4節 気象災害と防災 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
3 学 期	5節 自然災害への備え 1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
	第2章 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
1 学 期	1節 生活圏の調査と地域の展望 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのかを学ぶ。 							
評 価									
評価の観点	到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規準]	評価のフィードバック							
		1期末	2期末	学年末					
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムの役割や有用性、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付き、世界の人々の特色ある生活文化、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性について基本的な知識を身に付けている。 	○	○	○					
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムの目的や用途、内容、適切な活用の仕方、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付き、世界の人々の生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わり、地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 	○	○	○					
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システム、現代世界の地域構成、生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 	○	○	○					
評価方法	①	②	③						
	㊦定期考査 ㊧ワーク ㊨小テスト ㊩振り返りシート (自己評価)	㊦定期考査 ㊧ワーク ㊨小テスト ㊩振り返りシート (自己評価)	㊦定期考査 ㊧出席状況や提出物 ㊨学習参加の仕方や態度 ㊩振り返りシート (自己評価)						